

=====  
ふくしま

2018. 4. 26

## 復興支援フォーラムニュース

No. 129

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 ([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com))  
=====

【第127回ふくしま復興支援フォーラム/2018年4月26日・AOZ 大活動室1】

### 「双葉郡の医療体制と課題」

堀川 章仁 (双葉郡医師会)

東日本大震災と原発事故から7年半経過した今、双葉郡の今後の医療について、東日本大震災以前から今日に至るまでの経過を振り返りながら、考えて行きたい。

双葉郡地方は、原子力発電所が建設される以前は 主なる産業は農業のみであり決して裕福と言えない状態で、農閑期には東京に出稼ぎ出かける人もいた。東京電力の原子力発電所の建設は港の建設と原子炉や発電機を設置する建屋の建設があり、大勢の人手を必要とした為、建設現場で働きに出掛ける人や双葉郡以外から建設現場で働く人達を相手に 自宅を改築し、下宿屋を始める等で直接的に現金収入が増加した。また、それらのお金の流通で双葉郡地方は裕福な環境となった。港湾の建設は危険を伴う仕事で気性の荒い人も多く、物騒な時期もあったが、発電所が稼動すると発電所での作業による賃金や電源交付金等の収入は此の地方を継続的な豊かな地域としていた。

震災前、双葉郡は浪江、双葉、大熊、富岡、楢葉、広野の6町と葛尾、川内の2村で形成されている。人口は7万人で平均年齢も県内では比較的若い地域に位置していた。医療施設は県立大野病院、双葉厚生病院、西病院、双葉病院、今村病院、高野病院の6病院、診療所は浪江町10、双葉町2、大熊町2、富岡町8、楢葉町1、広野町3、川内村1、葛尾村1の計26施設があった。科別では内科・外科系17、産婦人科1、泌尿器科1、眼科2、皮膚科1、耳鼻科2施設となっていた。また、双葉町には准看護師養成所として公立双葉准看護学院が設立され、1学年30人定員

で2年の学習後、准看護師として相双地域の医療スタッフの充実に寄与してきた。

今現在、双葉郡の医療機関は浪江町に浪江町町立診療所、富岡町にふたば医療センター附属病院、富岡中央医院、富岡町立診療所、楡葉町に大野病院附属双葉復興診療所（リカーレ）、ときクリニック、広野町に馬場医院、高野病院、川内村に川内村立診療所、葛尾村に葛尾村立診療所の、2病院、6診療所がある。郡内ではないが 昨年12月からいわき市好間の復興公営住宅敷地内に郡立好間診療所、今月からはいわき市勿来地区の復興公営住宅敷地内に郡立勿来診療所が開設され 医療と心の支えとして奮闘している。しかし、何れの施設でも経営が成り立つ状況ではなく、特に私立の場合、経費は持ち出しで困難な運営である。

原発事故後双葉郡のほぼ全域が避難警戒地域に指定され避難を強いられ、多くの苦難に遭遇し未だその心の傷は癒えておらず、避難解除準備区域の指定が外れた今も尚、心のかげりとして残っている。避難指定が解除 されても帰還住民は少ない。帰還条件として最低でも医療施設が整ってなければとの声を取り上げられているが、避難地で多くの人が家を求めているのが現状であり、住民の帰還率は低いと考えられ、医療施設の経営難はこの先未だ続くと考えられる。一方原発廃炉の研究は全世界の学者達の興味の対象となり多くの学者や、廃炉に携わる人々が双葉郡に流入するとの考えあり、今後のことは全く不明である。



## <第126回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

2018年4月12日（木）、福島市A O Zで第126回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

生協コープふくしま専務理事の野中俊吉氏（経産省汚染水処理対策委員会トリチウム水タスクフォース委員）から、「トリチウム汚染水問題～住民目線から海洋放出案と水蒸気放出案の是非を問う～」をテーマに報告していただきました。年度初めの多忙のなか、25名の市民が参加し、熱心な質疑応答が続きました。

同会場で、文書提出されたご意見・ご感想は以下の通りです。参考にしてください。

~~~~~

★ 大変分かりやすかったです。と同時に、総量規制がないということがショッキングでした。  
(H.N)

★ トリチウムについて、正直、知識不足であることを痛感しました。実際に、どのような被害がともなうのかを知識を積み重ねて、一福島県民として、物さしをつくっていきたい。ありがとうございました。(S.M)

★ 海洋放出ありきで進んでいるのは、ある種のサボタージュではないでしょうか。今回の話を聞いて、まずこのことを思い浮かべました。(Y.I)

★ トリチウム汚染水の問題でしたが、改めて福島は風評被害を引き受けろと言われ続けていると思いました。リスクコミュニケーションという言葉をあちこちで聞くようになりましたが、しっかり勉強したいと思います。(T.K)

★ 歯に絹着せぬご解説、たいへんわかりやすかったです。(N.O)

★ タスクフォースに出席している科学者・研究者の態度について、興味がわきました。それぞれの専門分野で実績を上げている先生方は、全体として、どのようにすべきかということに責任をもっているようには感ぜられなかった。審議会などに参加している学者・研究者は、自分の狭い専攻の中で何をいえるか、何を言っているのかということに終始している感じですね（他の専攻分野に口を出さないという謙虚さでしょうか？）。原発事故が起きてから、政府・事業者はともかく、学者の「安全性」説を、かなり信用して原発設置を容認してしまったとの住民の学者批判の声を聴き、ハッとしました。審議会などに参画している限り、自分の狭い専門に閉じこもるのではなく、全体的な結論に責任を持つべきと感じた例でもありました。(T.K)

★ トリチウム問題をテーマにした議論の場に、住民が入る機会が少ない中、貴重な会だったと思えました。大変勉強になりました。(H.K)

◆◆◆◆【会場カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第126回ふくしま復興支援フォーラム(4月12日)の会場で、カンパ2,711円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。(今野)

【会計報告】(2018.4.24現在)

第1期(～2015.9)累計 収入214,746円 支出207,640円 残(繰越)7,106円

第2期(2016.10.27～)

「収入」(2018.3.27までの累計) 109,456円 (第1期 繰越 7,106円含む)  
会場カンパ(2018.4.12) 2,000円  
計 111,467円

「支出」(2017.11.30まで累計) 82,940円  
(2018.4.12)会場費(126,127) 4,200円  
計 87,140円

「残金(現在高)」 2018.4.24 24,327円

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

<予告>

第128回(2018年5月22日(火) 18時30分～20時30分)

テーマ 「災害記録の後世への伝承とその諸問題

—震災記録誌編纂と災害資料収集の現場から—

報告者 瀬戸 真之 氏(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

大活動室1 MAXふくしま4F(福島市曾根田町1-18)

第129回(2018年6月7日(木) 18時30分～20時30分)

テーマ 「福島県の森林林業の現状と課題について」

報告者 松本 秀樹 氏(福島県森林組合連合会 代表理事専務)

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

大活動室1 MAXふくしま4F(福島市曾根田町1-18)